

科目名	表象文化論				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	現代社会学部	配当年次	3年次
教員名	岡井 宏文			単位数	2単位

授業概要／Course outline

本授業では、皆さんの身の回りにある表象やイメージと、その背後にある社会構造に注目をして、その意味と連関を読み解いていきます。とくに宗教社会学や家族社会学等の視点から、私たち自身や私たちの身の回りで当たり前のように受容されている表象やイメージがなぜ受け入れられているのかを考えます。

具体的なトピックとしては、ジェンダーや家族、死（葬送、墓、グローバル化と埋葬）、装い（宗教と装い、ヴェール、モデストファッション）などを取り扱います。これらの生や死、宗教実践の表象やイメージがなぜ「当たり前」として受容されているのか、あるいはそれらが、どのような社会的諸力の関係のなかでどのように変容しようとしているのかを考えることを通じて、社会を批判的に読み解く視角を養うことを目指します。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク）
- 各回の学習内容を材料として教員や履修者同士での議論を行い、考察を深めます。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 イントロダクション

授業の趣旨と進め方を理解する。①本授業が、どのような問題を取り上げるのか理解する、②授業の進め方を理解する。

第2回 オリエンタリズムから考える「立場」と「関係性」

表象の関係性を、オリエンタリズムから理解する

第3回 「らしさ」から考える：女性①

近世～近代以降の女性の表象に注目して、性別役割分業をはじめ、近代のジェンダー秩序の成立過程や揺らぎについて考える。

第4回 「らしさ」から考える：女性②

近世～近代以降の女性の表象に注目して、性別役割分業をはじめ、近代のジェンダー秩序の成立過程や揺らぎについて考える。

第5回 「らしさ」から考える：男性

近代以降の男性の表象に注目して、近代の国民国家形成やジェンダー秩序、その揺らぎについて考える。

第6回 「家族」のカタチから考える①：近世

近世～近代の家族像の変遷について理解した上で、近代家族や性別役割分業、ライフコースの多様化等についても理解を深める。

第7回 「家族」のカタチから考える②：近代～

近代におけるジェンダー秩序の形成過程を改めて振り返りつつ、近代家族モデルの成過程について考える。その上でこれからの家族についても考える。

第8回「戒律」から考える：食

宗教における教義の多様性と望ましさの表象を「食の戒律」から考える。諸宗教の戒律の多様性や、戒律の意味と社会での作用について理解を深める。

第9回「戒律」から考える：装い

10回以降の内容理解の前提となる知識を整理する。戒律および戒律と装いの関わりについて理解する。ヴェール（ヒジャーブ）の基礎と多様性について理解し、ヴェールが表象する意味を考える。

第10回「ヴェール」から考える①

イスラームにおけるヴェールを取り上げ、それが歴史的にどのように実践、表象されてきたのかについて理解を深める。

第11回 「ヴェール」から考える③：ヒジャーブとジェンダー、オリエンタリズム

ヴェールを巡る理念と現代社会の実践、当事者と周囲のまなざしを読み解く。当事者による実践の有り様や意味世界について考える。移民社会における実践と表象の有り様についても理解を深める。

第12回「死」から考える①：生きること・死ぬこと・送ること

日本における葬儀の変遷と葬儀を取り巻く諸要素を理解した上で、葬儀のあり方について、社会のあり方や人々の意識と関連付けて考える。

第13回「死」から考える②：墓

日本における墓の変遷と諸要素を理解した上で、墓や墓のあり方について、社会のあり方や人々の意識と関連付けて考える。

★オンデマンド 「死」から考える③：グローバル化と墓

トランスナショナルな移動と死、家族についてオンデマンドで授業を行う。移民の埋葬地選択、国際結婚と葬送・墓のあり方にまつわる諸課題への理解を深める。オンデマンド授業は90分の授業を1月6日までにMoodleで配信する。

第14回 振り返り

これまでの14回の内容を振り返り、知見と論点を改めて整理する。期末課題レポートの準備を行う。

事前・事後学修／Preparation and assignments

事前学修：授業内容を理解するための準備として、Moodleにアップロードされた事前資料に目を通し内容への理解を深める。指定された語句・概念について調べておく。

事後学修：授業で扱ったテーマの理解をさらに深めるために、Moodle上でリフレクションペーパーをまとめる。

※各授業に対する事前・事後学修は約180分を目安とし、合計で2,700分程度とする。

上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

- (1) 身の回りにある表象やイメージを手がかりに、その背後にある社会構造について考察することが出来る。
- (2) 表象やイメージが社会においてどのように受容され、あるいはそれらがどのように変容しようとしているのかを観察し、社会を批判的に読み解く事が出来る。
- (3) 家族社会学や宗教社会学の基礎的な概念を理解し、説明することが出来る。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|-----------|-----------------------|
| ・ 思考力 | 専門知識・専門技能 |
| ・ 発信力 | 【現代社会学部 現代社会学科】 |
| ・ 協働性・協調性 | ・ 社会学をはじめとする社会科学の応用知識 |

履修上の注意／Special notes, cautions

初回の授業で、本授業の進め方を詳しく説明します。

この授業では、グループディスカッションなどアクティブラーニングが行われます。

また、そのための事前・事後学習も必要になります。

主体的な参加を心がけてください。

実際の講義スケジュール・内容は、受講者の理解度や関心に応じて臨機応変に対応していきます。

評価方法／Evaluation

平常点（授業への参加態度：授業での発言、グループディスカッションなどへの参加度・貢献度、課題・リフレクションペーパーの提出状況） 50%

レポート 50%

教 材／Text and materials

参考書：

弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史 家族史からグローバル・ヒストリーまで一大家族史からグローバル・ヒストリーまで』山川出版社, 2021.

永田夏来・松木洋人『入門 家族社会学』新泉社, 2017.

櫻井義秀・三木英編『よくわかる宗教社会学』ミネルヴァ書房, 2017年.

後藤絵美『神のためにまとうヴェール - 現代エジプトの女性とイスラーム』中央公論新社, 2014年.

※その他、授業内で適宜紹介する。

質問や相談の方法／Instructor contact

Moodleに記載するメールアドレスへの連絡
オフィスアワー時の研究室訪問（時間は、初回授業時に連絡する）